

### ●手袋の着脱について（学生からの意見）

山根先生の説明では、“赤いシールと青いシールで器械を扱う際に手袋が必要か否かの区別をしている”とあったが、今回、実際に実習をさせていただき、その中で“検体を扱う技師の方のほとんどが手袋をせずに検査していることに驚きました”。業務感染を防ぐために手袋の装着は義務付けられているのですが、実際のところ臨床の場では次から次へと検体が運ばれてくる上、技師は検体だけでなくコンピューターや顕微鏡を操作する必要があり、その度に手袋を着脱しては作業の時間がかかってしまうためということでした。授業で習った感染防止のためのガイドラインは、防止対策を細かく指示を出していますが、実際の現場の状況には合っていないようでした。もちろん手袋をつけるように習慣づけることも大切ですが、煩雑な手袋の着脱回数をできるだけ減らすことも大切です。そのためには、作業をする人数を増やすか、人と検体が近づく回数を減らす、つまり機器を使うことが有効だと思います。

### ● 検査部からの回答

まず、学生諸君に、大きな誤解と戸惑いを与えたことに謝りたい。臨床検査の現場が、ただ単に忙しい、煩わしいといった理由から、自ら決めたルールを守れないのは、間違った判断です。

血液、体液、排泄物などの患者検体を取り扱うときの感染予防策として、手袋を着用することは、医療従事者として当然のことです。検査部および輸血部では、患者検体を取り扱うことに加え、“手袋を着用して操作するものには赤シールを貼る”、“素手で操作するものには青シールを貼る”というルールを決め、検査機器類やコンピューターについても分別して取り扱うようにしています。しかし、指摘されたように、手袋を頻繁に着脱する煩わしさから、検体を素手で取り扱ったり、赤いシールが貼られている機器を素手で操作するなど、守るべきルール、自分で決めたルールを必ずしも守っていない技師がいたことも確認されました。

今回の指摘から、各検査室と輸血部で話し合い、改めて周知徹底するように申し合わせました。



(赤シールの貼付されたコンピュータと遠心器は手袋装着で・・・  
手袋を装着しないで業務感染しても、ルール違反した自分が悪い)



(青シールの貼付されたコンピュータは**絶対に手袋を装着しない!!!**・・・  
自分の汚れた手袋から、次に使ったヒトを感染させた・・・**これは犯罪!!!**)